

平成30年度

登録左官基幹技能者認定試験問題（60分）

四国ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題（四肢択一法）

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて10頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
 - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
 - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
 - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

問題1 登録基幹技能者に備えておくべき事項に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 熟達した運動能力
2. 豊富な知識
3. 現場を効率的にまとめるマネジメント能力
4. 日左連の資格認定を受けたもの

問題2 登録左官基幹技能者の仕事内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 施工管理技術者への施工方法の提案や調整を行う
2. 他職種の登録基幹技能者や職長に対して前工程や後工程に配慮した連絡調整を行う。
3. 登録左官基幹技能者の部下の技能労働者には現場のマネジメントを教育する。
4. 登録左官基幹技能者の部下の技能労働者の作業を含む施工に係る指示や指導を行う。

問題3 登録基幹技能者の制度に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 初級技能者を「見習い」という。
2. 中級技能者を「中堅技能者」という。
3. 上級技能者を「基幹技能者」という。
4. 最上級技能者かつ上級職長であり資格試験に合格したものを「登録基幹技能者」という。

問題4 登録基幹技能者を雇用・育成する優良な専門工事業者の受注機会の拡大や建設産業の担い手の確保・育成に対応して品確法が改正され、その内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 品確法の目的は、現在および将来の公共工事の品質確保をすることである。
2. 品確法の目的は、公共工事の品質確保の担い手の中長期的な確保・育成の促進を行うことである。
3. 品確法の基本理念は、施工技術の維持向上とそれを有する者の中長期的な確保・育成をすることである。
4. 品確法の基本理念は、災害と同時にいち早く現地対応することができる現場人材を育成することである。

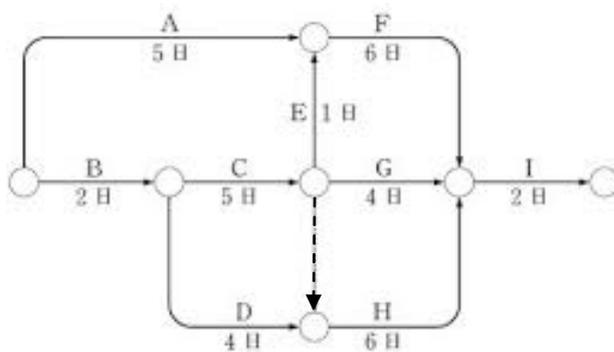
問題5 職業能力基準のイメージ「レベル4」の内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 高度な技術力を有する。
2. 建設現場での施工管理や工法、技術等について建築主と協議することができる。
3. 他職種との調整を行うことができる。
4. 品質・工程・原価・安全・環境等の施工における総合的な管理ができる。

問題6 コンプライアンスの違反に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 近年、工期や施工上の問題からマンション建設における電流計データを流用した「鉄骨工事偽装問題」があった。
2. 近年、施工費を下げるために建築士によるマンションやホテル建設の「耐震偽装問題」があった。
3. 過去には、コンクリート打設を容易にするために生コンクリートに加水する「品質低下問題」があった。
4. 過去には、混練り開始から3時間以上経たセメントモルタルに加水して再使用する「品質低下問題」があった。

問題7 下図の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



(注) ↓ は、ダミーを示す。

1. クリティカルパスは、クリティカルパスは、B→C→E→F→Iである。
2. この現場の工期は、16日である。
3. G作業の最早開始時刻(EST)は7日である。
4. F作業の最大の余裕日数(TF)は2日である。

問題 8 労働災害時の専門工事業における事業者責任の内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. ひとたび労働災害が発生すれば、専門工事業の経営者には、刑事責任、民事責任、行政責任が重くのしかかる。
2. 労働災害が起こった場合、被災者の雇用主の専門工事業の経営者は法的な事業者責任を背負う。
3. 労働災害を発生させた場合、まず問題になるのは、刑法の「業務上過失致死傷」と「労働安全衛生法違反」である。
4. 業務上過失致死傷の罰則は、10年以上の懲役、もしくは禁固、または1000万円以下の罰金が科せられ、大変重いものである。

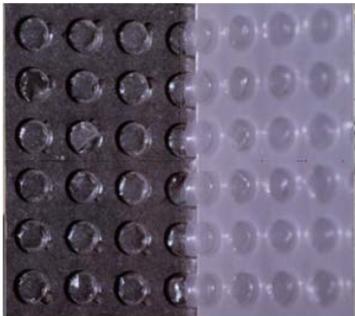
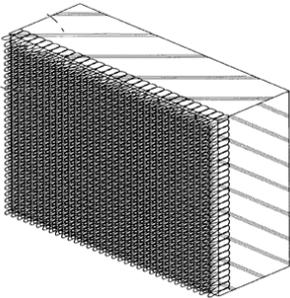
問題 9 労働安全衛生法における作業主任者の必要な業務に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 足場の組立等の作業
2. 屋内等での有機溶剤製造取扱い作業
3. 左官のセメントモルタル等取扱い作業
4. 型枠支保工の組立てまたは解体作業

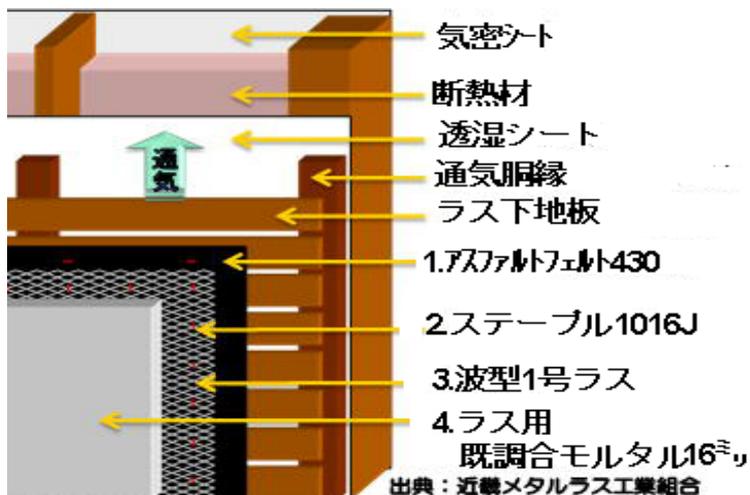
問題 10 ブレーンストーミング(BS)に関して、最も不適当なものはどれか。

1. BSは、5～7人程度の少人数の集団で、ある人の意見やアイデアに関して他の人たちが連鎖反応を示し、多彩・豊富・独創的な考え方を引き出す働きがある。
2. BSのルールでは、他人の意見をしっかりと批判し、中身を吟味することが優先されることから、安心して誰もが自由にアイデアを述べることができる。
3. BSのメンバーは、専門家、他分野の専門家、ゼネラリスト等で構成することが望ましい。
4. BSにおけるアイデアや意見に関する連鎖反応は、チーム全体の楽しさや競争心を生み出すことにつながっている。

問題 1 1 コンクリート表面の処理後の表面状態と処理方法に関して、最も不適当なものはどれか。

1.	<p>高圧水洗浄の例（吐出圧 50N/mm²）</p>	
2.	<p>専用シートによる凹凸処理</p>	
3.	<p>専用シートによる起毛処理</p>	
4.	<p>カップサンダー掛け</p>	

問題 1 2 二層下地通気構法を示す図で、最も不適当なものはどれか。



1. アスファルトフェルト 430.
2. ステープル 1016J
3. 波型 1 号ラス
4. 既調合モルタル 16 ミリ

問題 1 3 左官に関する記載で、最も不適当なものはどれか。

1. 左官工事は、可塑性のある材料を現場において使用し、所定の場所に必要な厚さに塗り、あるいは吹付ける工法のことである。
2. 左官工事の目的は、美観の付与や防水または漏水防止がある。
3. 塗り壁の特徴と性能は、どのような複雑な形状でも自由に形成することができる。
4. 左官の塗り壁は、広い面積では、継ぎ目ができてしまう。

問題 1 4 劣化のメカニズムに関して、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリートの下地にセメントモルタルを塗りつけてある左官仕上げの壁は、
2. その境界面では、 3. 異なった変形挙動がおきる。 これを 4. サーマルムーブメント
メントという。

1. コンクリートの下地にセメントモルタルを塗りつけてある左官仕上げの壁
2. その境界面
3. 異なった変形挙動
4. サーマルムーブメント

問題 15 塗り壁の故障の原因、内容、是正措置とそれぞれの組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか

1. 下地の吸水が大きいときは、吸水調整材を原液にして下地に塗布する。
2. 上塗り富調合は、ひび割れや剥離を発生させるので、下塗りほど富調合にする。
3. 硫化物を含む砂は、変色を発生しやすくするので、取り替える処理が必要である。
4. エフロレッセンスは、しみ・はく離を発生するので、除去することが必要である。

問題 16 左官用語の解説に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 表面気泡とは、型枠の目違いや打ち込み不良により段差がおき、仕上げ層に応力集中、モルタルの塗り厚が多すぎることで応力が発生するものである。
2. 硬化不良とは、コンクリートが予定の日数を経ても、全く硬化せず、壁や床の躯体としての性能の硬さに至らないこと。
3. 剥離とは、セメントモルタル層と躯体コンクリートとの界面における相互の接着が不良となり、隙間が生じ部分的に分離する状態のことである。
4. 白華とは「ブリージング」ともいい、レンガやタイル目地、コンクリート等の表面から流れ出た水酸化カルシウムが、結晶化した白色の物質である。

問題 17 JIS A 6909(建築用仕上塗材)の仕上塗材の種類と呼び名の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 内装薄塗材Cとは、内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材のことである。
2. 内装厚塗材Gとは、内装せっこう系厚付け仕上塗材のことである。
3. 外装薄塗材Eとは、外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材のことである。
4. 内装薄塗材Wとは、内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材のことである。

問題 18 設住宅瑕疵担保履行法の設計施工基準の雨漏り対策で、最も不適当なものはどれか。

1. 直張り構法（非通気）に用いる防水紙は、JIS A 6005 に適合するアスファルトフェルト 430 又は透湿防水シートとする。
2. 外壁開口部の周囲（サッシ、その他の壁貫通口等の周囲）は、防水テープを用い防水紙を密着させること
3. 普通モルタルを用いる場合は、防水上有効な仕上げ又はひび割れ防止に有効な措置を施すこと
4. 既調合軽量セメントモルタルは JASS 15 M-102（既調合軽量セメントモルタルの品質基準）に基づく各製造所の仕様によること。

問題 19 施工管理における三大管理とその関連性に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 工程と原価の関係で、施工速度を上げ過ぎると突貫作業となり、逆に原価は高くなる。
2. 原価と品質の関係は、一般的に品質を良くすると原価は低くなるが、品質を下げるとう原価は上がる。
3. 品質と工程の関係は、品質の良いものは一般に時間がかかり施工速度は遅くなるが、品質を下げると施工速度は上がる。
4. 工程と原価の関係は、施工速度を上げると単位時間当たりの出来高が増え原価は安くなる。

問題 20 建設副産物に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設副産物とは、建設工事に伴い副次的に得られたものであり、工事現場から搬出される再利用が可能なものである。
2. 建設発生土は、そのまま原材料となるもので、資源有効利用促進法に規定された「指定副産物」である。
3. 建設発生木材は、原材料としての利用の可能性があるもので、建設リサイクル法に規定された「特定建設資材廃棄物」である。
4. 原材料としての利用が不可能なものは、廃棄物として処理する。

問題 2 1 建設資材の発注プロセスに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 製作材においては、資材が製作図通り製作されているかどうかを現場搬入前に工場立会検査で確認する必要がある。
2. 一般材の納入依頼について、搬入費用をできるだけ軽減するために、可能な限り一度にまとめて納入するように依頼する。
3. 製作材の発注プロセスについて、購入手続きから納入までの時間を要するものが多く、全体工程に大きく影響を及ぼすものがある。
4. 製作材の製作打合せに際しては、仕様書及び設計図記載事項を理解するとともに、客先の意向や現場での施工上の納まりを十分に考慮し、それらの情報を正確にメーカーに伝える必要がある。

問題 2 2 タイル下地におけるコンクリート面の下地処理について最も不適当なものはどれか。

1. コンクリート表面を削り落とすサンダー掛け工法は、処理後の水洗いが必要であり、目荒らし効果もあまり期待できない。
2. コンクリート打設前、型枠面に専用の中空樹脂シートを貼り、コンクリート表面に凹凸を作る MCR 工法は、モルタルが凹凸に食い込むことで剥離安全性を確保する。
3. 吐出圧 50MPa 程度の高圧水洗浄法は、コンクリート面の清掃を行い、同時に表面に凹凸をつけ、目荒らし効果が期待できる。
4. 超高圧洗浄法では、コンクリート表面を水圧で傷つけ凹凸を作り、セメントモルタルの付着力を高めている。

問題 2 3 わが国建設業における労働災害の現状について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. 労働災害とは、労働者が就業中や通勤途上などで負傷、疾病、障害、死亡する災害のことをいう。
2. 近年の労働災害減少の要因のひとつに、安全関係法規の整備が挙げられる。
3. 死亡災害を事故の型別で見ると、建設工事全体では建設機械事故によるものが最も多い。
4. 建設業の安全対策が難しい理由のひとつに、作業内容が日々変化するため慣れによる安全効果が期待しにくいことが挙げられる。

問題 2 4 各種労働災害防止について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. リフォーム工事では、既存建物、植栽、側溝等、足場の支障になるものが多く存在するので事前の現地調査が必要である。
2. 解体工事においては石綿が使用されていることが多いので、石綿による健康障害防止対策を考える必要がある。
3. 熱中症予防対策として、WBGT（暑さ指数）を測定することは有効である。
4. 高さが 3m 未満の所での作業を行う場合、特に作業床を設置する必要はない。

問題 2 5 法で定められた建設現場における安全管理について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1. 小規模の型枠支保工の解体作業をする場合、その資格のある作業主任者を選任しなくとも良い。
2. 現場では、整理、整頓、清潔、清掃の「4S」に努めなければならない。
3. 複数業者が混在する 50 人以上の建設現場では、元請業者は安全管理のために統括安全衛生責任者を選任する必要がある。
4. 元請業者は、現場で新たに就労する作業員に対し新規入場者教育を行う必要がある。